

2003 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	環境心理尺度ハンドブック刊行 WG	主 査 名：小島隆矢
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会(企画刊行小委員会)	委員長名：鉾井修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>目的に応じたリーズナブルな設問群とその使い方がまとめられた書籍を刊行し、この分野の研究の発展に貢献することを本 WG の目的とする。</p> <p>初年度は旧・環境心理尺度ファイル WG (2001~2002) の成果を継承し、文献調査、ヒアリング調査などを実施し、成果物に収録すべき内容のレビューを行う。</p> <p>次年度初頭には目次案を作成し、出版元の決定、内容の調整および執筆依頼を上半期に、最終的には年度内の校了・出版を目指したい。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>小島 隆矢 (独立行政法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ)</p> <p>若林 直子 (生活環境 NPO あくと)</p> <p>宗方 淳 (東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻)</p> <p>川井 敬二 (熊本大学 大学院自然科学研究科 環境共生科学専攻)</p> <p>高橋 正樹 (千葉大学 大学院自然科学研究科)</p> <p>室 恵子 (足利工業大学 建築学科)</p> <p>橋本 修左 (武蔵野女子大学 人間関係部 生理人類学研究室)</p> <p>秋田 剛 (東京電機大学 工学部 建築学科)</p> <p>上野佳奈子 (東京大学 生産技術研究所)</p> <p>山内宏太郎 (白百合女子大学)</p> <p>大井 尚行 (九州大学 大学院芸術工学研究院)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>下記の 5 回の委員会を開催したほか、随時メールでの討論、および担当者数名による打合せ数回を行っている。</p> <p>第 1 回(9/12、6 名) 第 2 回(11/17、7 名) 第 3 回(12/15、6 名) 第 4 回(1/27、5 名) 第 5 回(3/12、4 名)</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>学術研究あるいは実務における多くの環境心理調査では、事例ないしは研究者ごとに個別の方法で実施されることが多い。そのため、調査の設計には多大な労力とコストを費やすことが必要であり、質の悪い調査を行ってしまうリスクも大きい。そこで、本 WG の成果物である書籍を、調査における労力・コストおよび失敗リスクの低減(すなわち質の向上)を可能とするための実践教書と位置づけている。そのため、次のような方針で、成果物の内容を検討中である。</p> <p>理論面だけでなく、現実的なノウハウを盛り込む。</p> <p>各分野における実例を収録する。</p> <p>CD-ROM 付きとし、質問紙、入力ファイル、集計・分析などのサンプルファイルを収録する。</p>
	委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s1/syakudoWG/
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<p>内容的には当初の計画通りの進捗状況といえるが、出版社との交渉が遅れている。</p>
その他評価すべき事項	<p>成果物に反映することを動機の一つとして、各委員の発意によりいくつかの調査研究が実施されており、それらは論文等としても成果公開されると思われる。このような、WG の名前は表に出ない形の学術的な貢献も、何らかの形で評価されたい。</p>